

完了後の評価個表

整理番号	3
------	---

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	北海道
地域（地区）名	後志胆振 <small>しりべしいぶり</small>	事業実施主体	道、市町村、森林組合等
関係市町村	島牧村ほか 19 市町村 <small>しままきむら</small>	管理主体	道、市町村、森林組合等
事業実施期間	H23 年度～H29 年度（7 年間）	完了後経過年数	5 年

<p>事業の概要・目的</p>	<p>本地区は、北海道の中央から南西部に位置し、後志総合振興局管内中南部と胆振総合振興局管内西部を区域とする。東部には<small>わしべつだけ</small>鷲別岳、オロフレ岳、ホロホロ山が南北に並び、<small>むいねやま</small>無意根山から<small>しやこたんはんとう</small>積丹半島の<small>せきりょう</small>脊梁を境に、南部は<small>うちうらわん</small>内浦湾から<small>かりばやま</small>狩場山を境に日本海に接している。</p> <p>本地区の民有林面積は 194 千 ha で、うち人工林面積が 47 千 ha（人工林率 24%）となっている。人工林の樹種別構成は、トドマツが 49%、カラマツが 26% を占め、年齢別構成は 10 年齢級の 5 千 ha をピークに 8～12 年齢級が 48% を占めるなど、森林資源の本格的な利用期を迎えており、増大する利用可能な資源の活用と適正な管理が必要となっている。</p> <p>このため、森林資源の循環利用を推進しつつ、森林の有する公益的機能を総合かつ高度に発揮させるためには、主伐後の植栽や下刈り、間伐等の森林施業が必要となっている。</p> <p>しかしながら本地区では、材価の低迷や林業経営を目的としない不在村所有者が多いことに起因する手入れ不足の森林が見受けられ、森林の有する多面的機能の発揮に支障を及ぼしかねない状況となっている。一方で本地区は、国内外から多くの観光客を集める北海道でも有数の観光地帯であり、森林の織りなす豊かな自然環境や美しい景観を守るとともに、地域の多様な農業と水産業を支える水資源を確保する必要がある。</p> <p>本事業は、<small>かん</small>水源涵養や山地保全等といった森林の有する公益的機能を発揮するために必要な造林や間伐など森林整備を積極的に推進するとともに、これらの効率的な実施及び木材等生産機能の維持増進を図るために必要となる路網整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>森林整備</td> <td>35,407ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、 保育間伐、間伐、更新伐、森林作業道整備等</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>16,852m</td> </tr> <tr> <td></td> <td>林道開設</td> </tr> </table> <p>・総事業費 12,213,661 千円（税抜き 11,608,879 千円） （平成 22 年度の評価時点 6,586,620 千円）</p>	森林整備	35,407ha		人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、 保育間伐、間伐、更新伐、森林作業道整備等	路網整備	16,852m		林道開設
森林整備	35,407ha								
	人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、 保育間伐、間伐、更新伐、森林作業道整備等								
路網整備	16,852m								
	林道開設								

<p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和5年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、費用便益分析で使用する単価の変化や労務単価の上昇、優先度の高い箇所から実行したことに伴う路網整備の追加等の事業量の変動等によるものである。</p> <p>総便益 (B) 124,042,765 千円 (平成 22 年度の評価時点 71,511,460 千円※)</p> <p>総費用 (C) 30,559,403 千円 (平成 22 年度の評価時点 12,738,049 千円※)</p> <p>分析結果 (B/C) 4.06 (平成 22 年度の評価時点 5.61※)</p>
<p>② 事業効果の発現状況</p>	<p>更新、保育などの施業により 35,407ha の森林が整備され、水源涵養や山地保全等の森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。</p> <p>また、路網開設によって車両が通行可能となり、森林整備事業地までの到達時間の短縮や資材運搬等が容易になった。</p> <p>さらに、森林整備及び路網整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域の経済の振興に貢献した。</p>
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>整備された森林については森林経営計画等に基づき適切に管理を行っており、良好な管理状況にある。</p> <p>整備された路網については、草刈りや路面の整備等を行うなど、適切に維持・管理されている。</p>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>森林整備の実施により健全な森林が育成され、水源涵養や山地保全等といった森林の有する公益的機能が発揮されている。</p> <p>路網開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、溪流の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>林業労働者の減少や高齢化により、林業の現場では効率的で生産性の高い作業システムの導入が求められている中、路網整備により作業現場へのアクセス改善、コンテナ苗の活用や低密度植栽の促進による森林施業コストの低減が図られることで、森林所有者による森林施業の意欲が徐々に高まってきており、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上が図られると期待されている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>利用期を迎えた森林資源を活用し、持続的な森林経営を実現していく必要があるが、木材価格の低迷等により間伐等の実施状況が十分といえない場合もあることから、森林施業の集約化や保育作業の省力化など低コストで効率的な作業システムの確立のほか、計画的な森林整備を一層推進する必要がある。</p> <p>地元の意見： (北海道)</p> <p>森林の有する多面的機能が持続的に発揮されるために、計画的な事業実施が必要である。</p> <p>また、森林施業の集約化など森林施業の低コスト化を促進し、森林所有者の林業経営意欲の向上を図るため、計画的かつ効率的な施行の実施に努める必要がある。</p>

<p>評価結果</p>	<p>必要性： 水源涵養や山地保全等といった森林の有する公益的機能を持続的に発揮するためには、造林や間伐などの森林整備が必要であるため、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性： 森林整備では現地の状況を踏まえた効率的な作業システムにより、また、路網整備では集材効率の悪い箇所に路網を開設することによりコスト縮減が図られており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性： 適切な森林施業の実施により森林の有する多面的機能の維持増進が図られている。また、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向け、地域が一体となった森林づくりの取組が進められており、事業の有効性が認められる。</p>
-------------	--

※平成 22 年度評価時点における数値について、消費税を含んだ数値である。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：北海道

地域(地区)名：後志胆振

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	26,497,450	
	流域貯水便益	7,368,603	
	水質浄化便益	28,313,243	
山地保全便益	土砂流出防止便益	38,462,873	
環境保全便益	炭素固定便益	10,161,453	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	6,145	
	木材利用増進便益	2,435	
	木材生産確保・増進便益	11,901,377	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	389	
	森林整備促進便益	1,328,797	
総 便 益 (B)		124,042,765	
総 費 用 (C)		30,559,403	
費用便益比	$B \div C = \frac{124,042,765}{30,559,403} = 4.06$		

